

2020年度 決算補足資料

2021年5月18日



2020年度 決算のポイント

(単位：百万円)

	2019年度 通期	2020年度					
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	公表値 (2/8)
売上高	120,577	15,524	21,312	27,670	28,467	92,973	92,300
営業利益	764	△3,020	△782	1,092	156	△ 2,554	△2,600
経常利益	406	△2,589	△561	1,004	52	△ 2,094	△2,200
当期純利益	△685	△3,190	△788	919	216	△ 2,843	△2,900

《全体感》

- 売上：コロナによる生産の大幅減少は1Qを底に回復。4Qの売上高はアルミ地金市況の上昇で3Qを上回る水準となる一方で、販売量は半導体不足等による自動車メーカーの生産減を受け一部工場で減少影響が出る
- 営業・経常利益：売上回復とともに原価低減、生産性改善活動による収益改善が寄与し3Q以降は黒字を確保
- 4Qは半導体不足等による販売量減と地金市況上昇による調達コスト増が収益に影響
- 当期純利益：3Q以降では黒字を回復

ダイカスト事業

(単位：百万円)

		2019年度 通期	2020年度					通期	公表値 (2/8)
			1Q	2Q	3Q	4Q			
日本	売上高	59,500	7,232	10,972	13,760	13,620	45,584	45,100	
	セグメント 損益	△444	△2,069	△650	381	△153	△2,491	△2,600	
北米	売上高	30,633	4,742	3,868	6,262	6,756	21,628	21,500	
	セグメント 損益	635	△156	△167	449	△32	94	250	
アジア	売上高	23,846	2,257	5,346	5,738	6,590	19,931	20,000	
	セグメント 損益	3	△995	36	132	229	△598	△550	

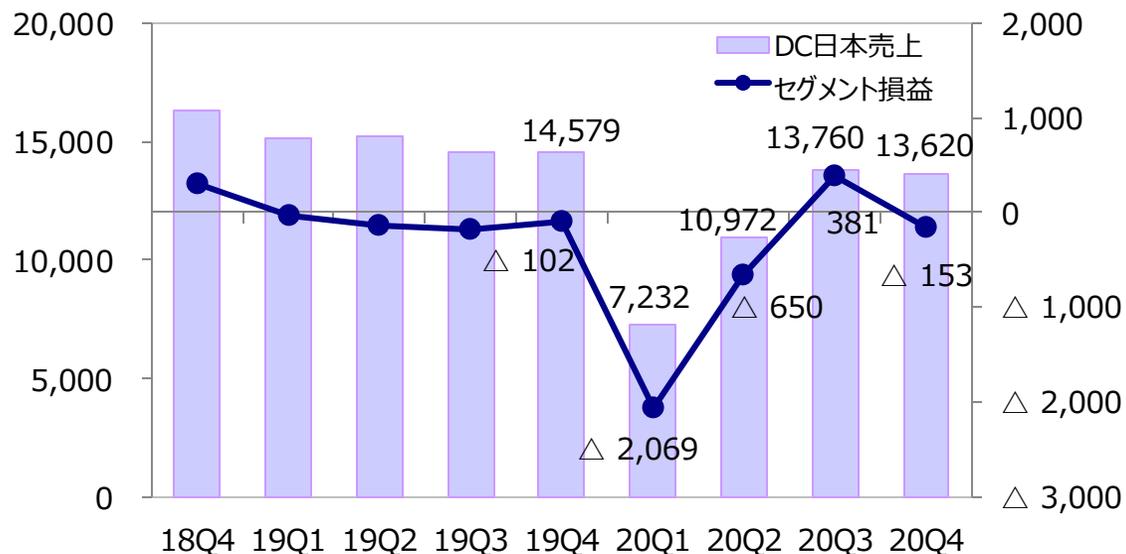
※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2019年度：47.8% ⇒ 2020年度：47.7%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



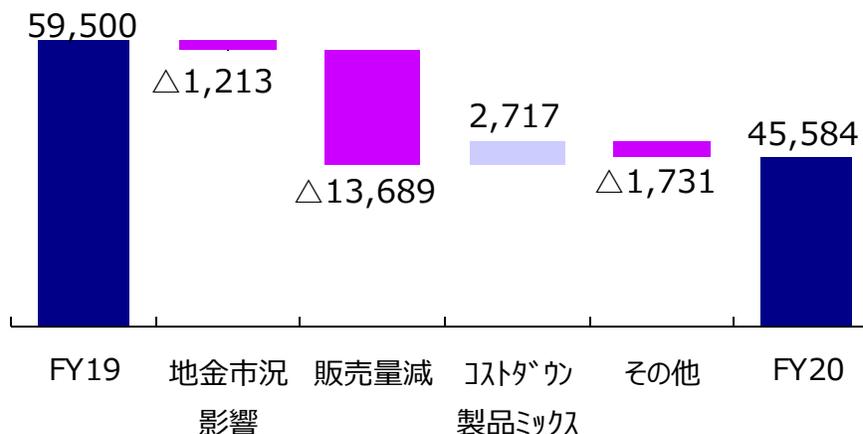
売上：139.1億円減（前期比23.4%減）

- 販売量は3Qは前年並みに回復するも、4Qは半導体不足の影響を受け▲11%減

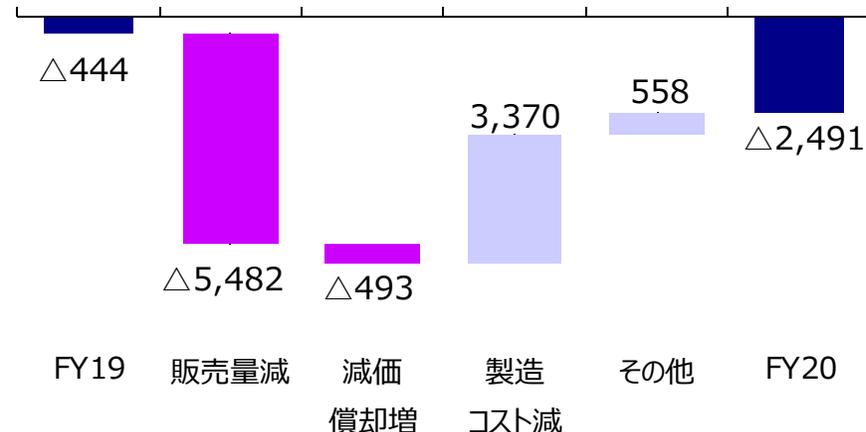
セグメント損益：20.4億円減（前期比赤字拡大）

- 4Qは、販売量減により赤字計上
- 通期ではリーンな生産体制の推進等による収益体質改善活動で、販売量減による収益悪化要因を圧縮

売上高増減要因（単位：百万円）

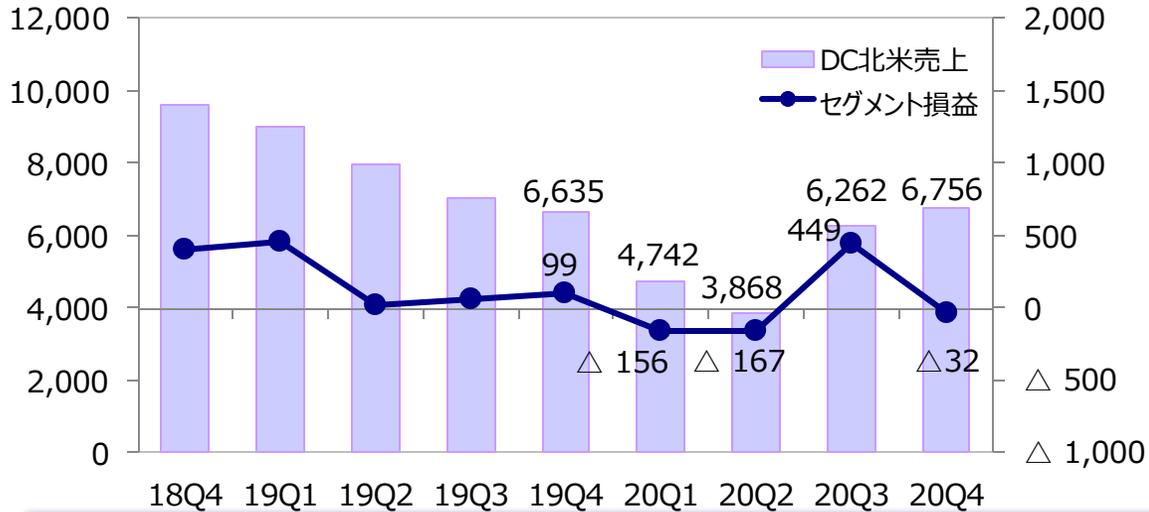


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



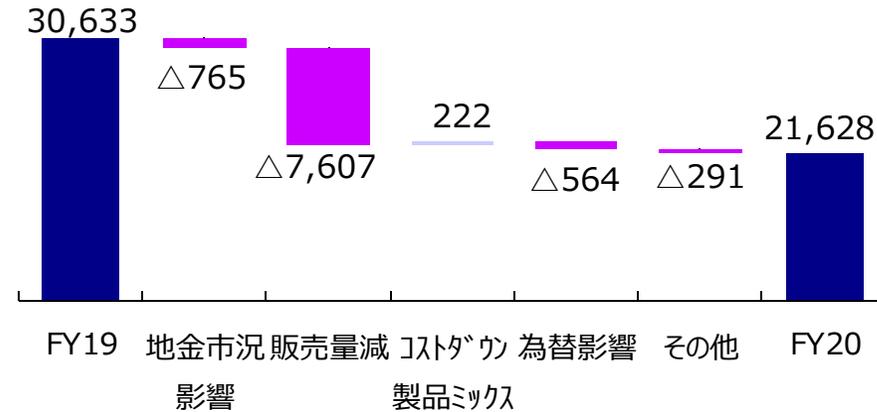
売上：90.0億円減（前期比29.4%減）

- アメリカは1Qの操業停止から下期回復。4Qは半導体影響受け、一部顧客向け販売量減
- メキシコの2Q（4～6月）のロックダウンから回復。下期は前年並みの販売量を確保

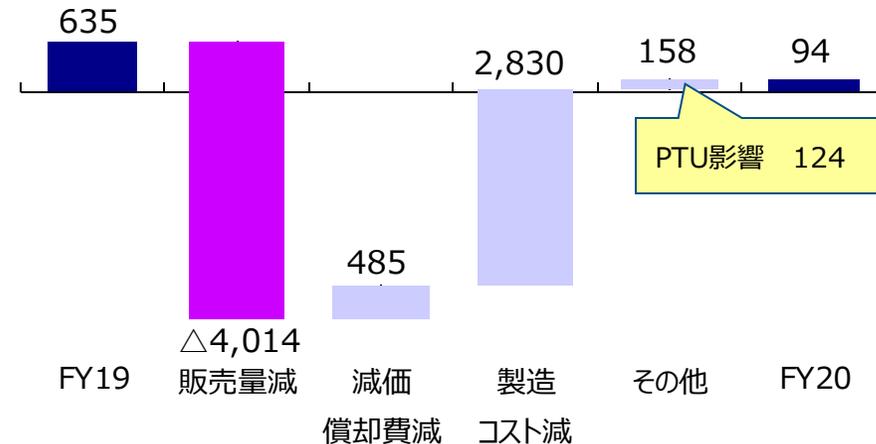
セグメント損益：5.4億円減（前期比85.1%減）

- アメリカは労務費削減等による収益改善を進めるも、上期の販売量減の影響等が収益に響く
- メキシコは売上回復に伴い収益面も改善。通期でも黒字維持
- セグメント全体では前期比減ながらも通期黒字維持

売上高増減要因（単位：百万円）

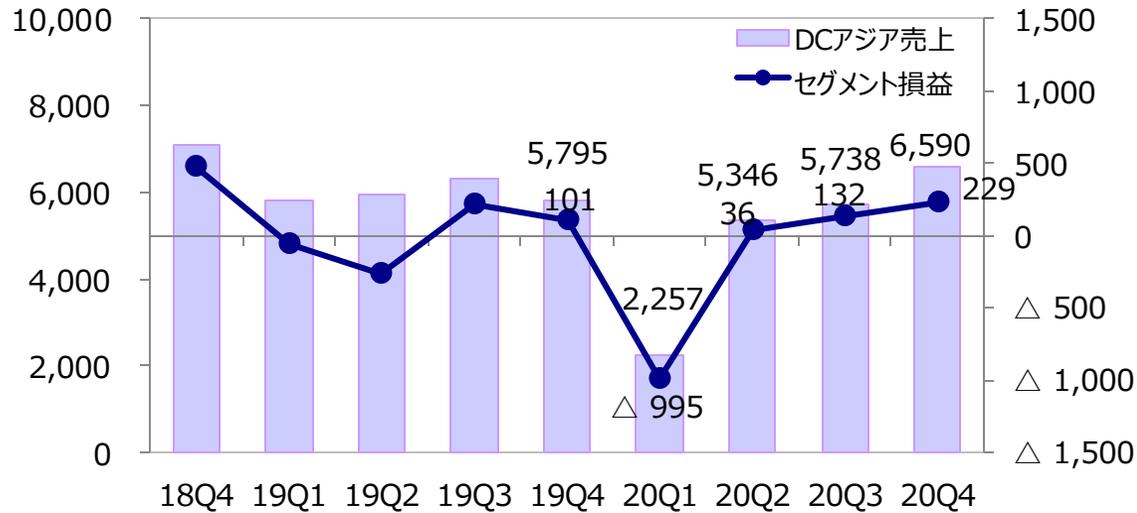


セグメント損益増減要因（単位：百万円）

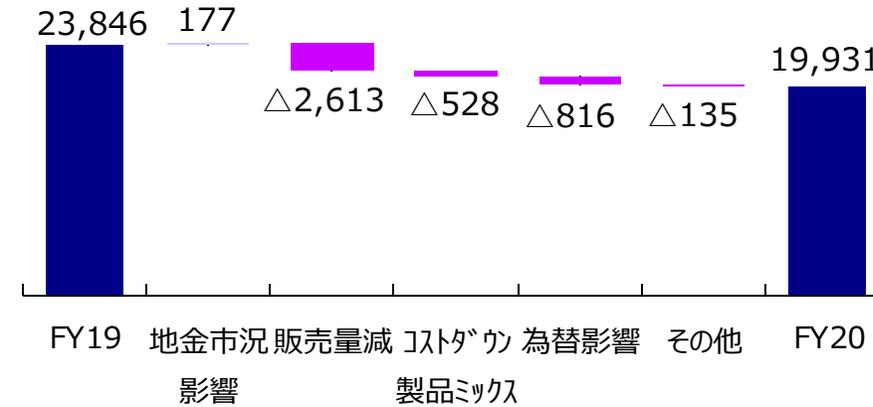


ダイカストアジア

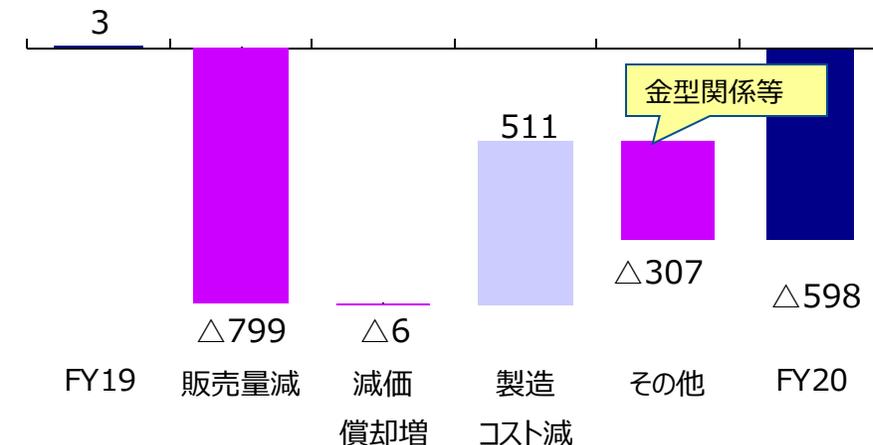
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



売上：39.1億円減（前期比16.4%減）

- 中国2拠点の下期の販売量は前年同期を上回り、通期でも9割弱まで回復
- インドは1Qロックダウンからは増加となったが、下期の販売量は前年同期比▲17%と回復途上

セグメント損益：6億円減（前期比減）

- 中国は売上増と生産性改善により2Q以降黒字を回復

決算期：中国12月期、インド3月期

レート（FY19⇒FY20） 人民元 15.85 ⇒15.44 インドルピー 1.54 ⇒1.43

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2019年度 通期	2020年度					公表値 (2/8)
			1Q	2Q	3Q	4Q	通期	
アルミ ニウム 事業	売上高	3,993	646	748	1,018	1,071	3,483	3,500
	セグメント 損益	169	△41	0	36	38	33	0
完成品 事業	売上高	2,603	644	379	891	431	2,345	2,200
	セグメント 損益	277	109	40	126	45	320	250

アルミニウム事業

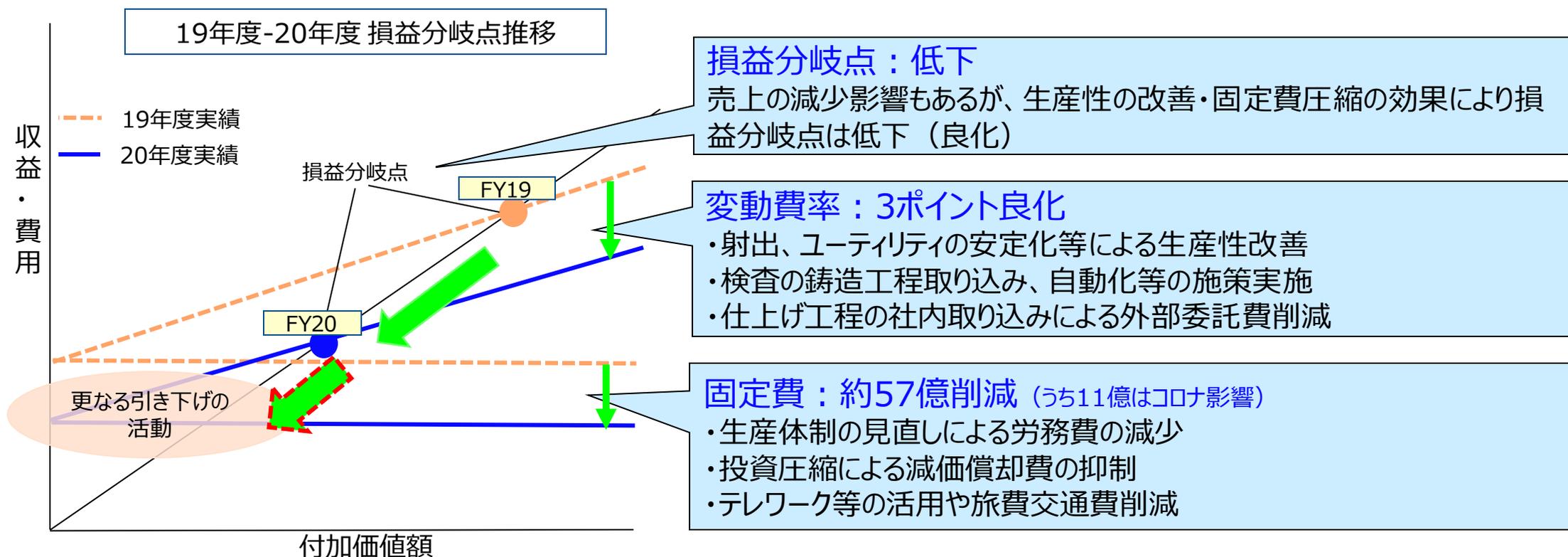
- 売上：新型コロナウイルス感染症の影響からは回復し、下期の売上高は前年同水準
- セグメント損益：上期は売上高の大幅減少による収益悪化となったが、3Q以降で黒字回復

完成品事業

- 売上：4Qは期ずれ影響で売上減少。通期ではクリーンルーム等の大型物件の受注が前期を下回ったが公表値以上の売上確保
- セグメント損益：原価低減等により前年を上回る利益を達成

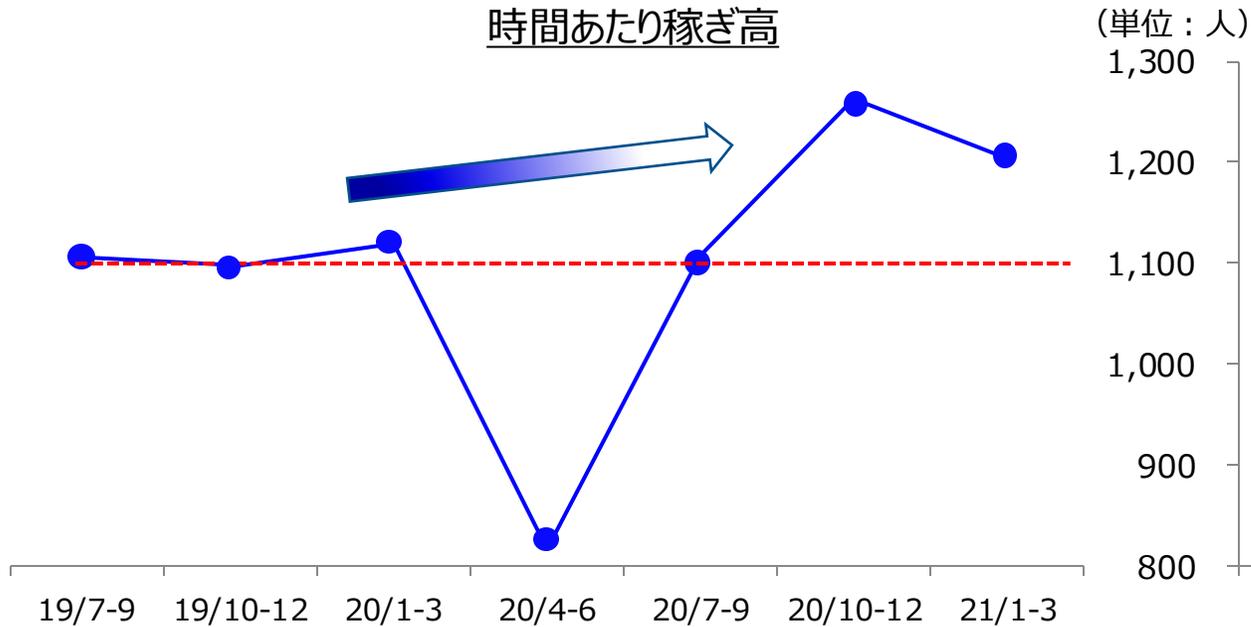
20年度通期における収益体質の改善

19年度からの中期経営計画でリーン生産体制への転換により、損益分岐点が低下。
20年度通期では固定費の減少だけでなく、生産性の改善で変動費率も良化。

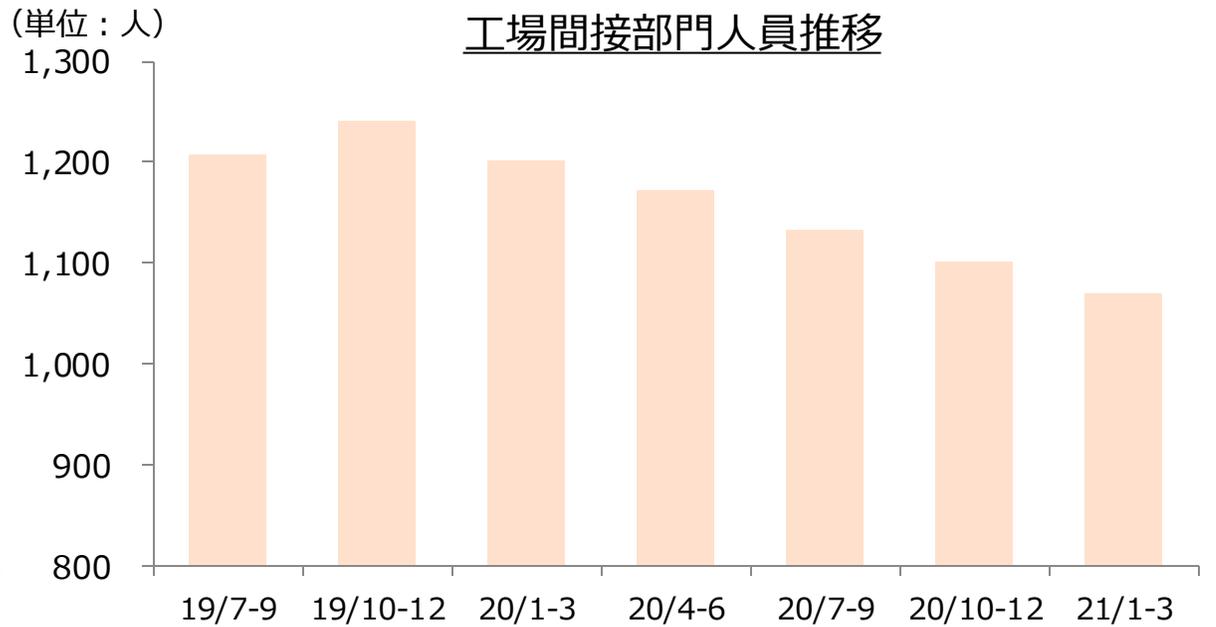


リーン生産体制推進状況

時間あたり稼ぎ高



工場間接部門人員推移



リーン生産体制の推進で、時間あたり稼ぎ高は前年比改善
21年 1～3月一部工場の販売量減が影響

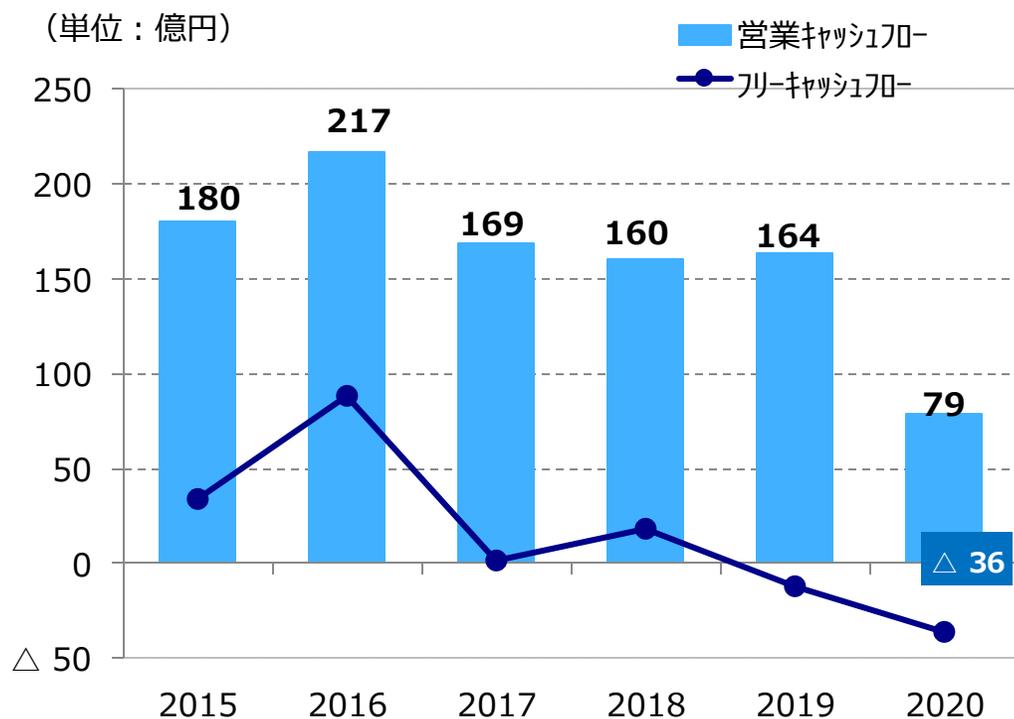
工場間接部門も異動、効率化推進等により減少

- ・工場間の間接業務の機能統合
- ・Web会議活用、業務見直しで効率化推進

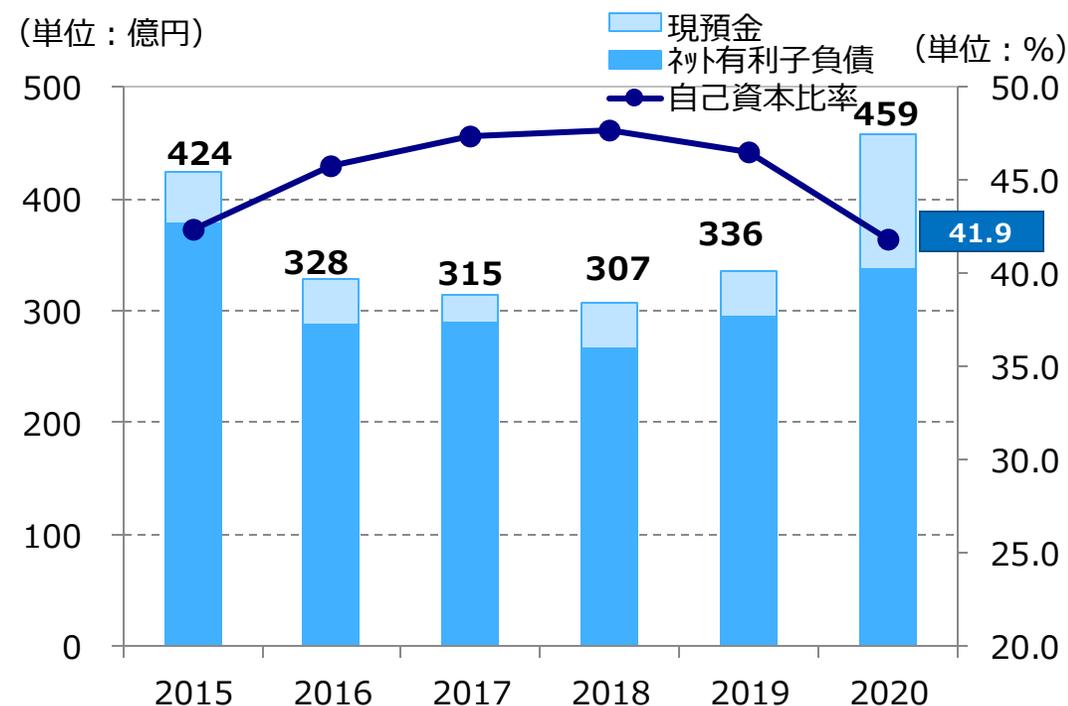
※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間

2020年度の財務状況

営業CF減となった20年度は投資CF圧縮により社外流出を抑制
手元現預金を増やし、有利子負債は459億円（ネット有利子負債は336億円、前年比41億円増）
自己資本比率は41.9%の水準



※フリーキャッシュフロー（FCF）＝営業CF－投資CF



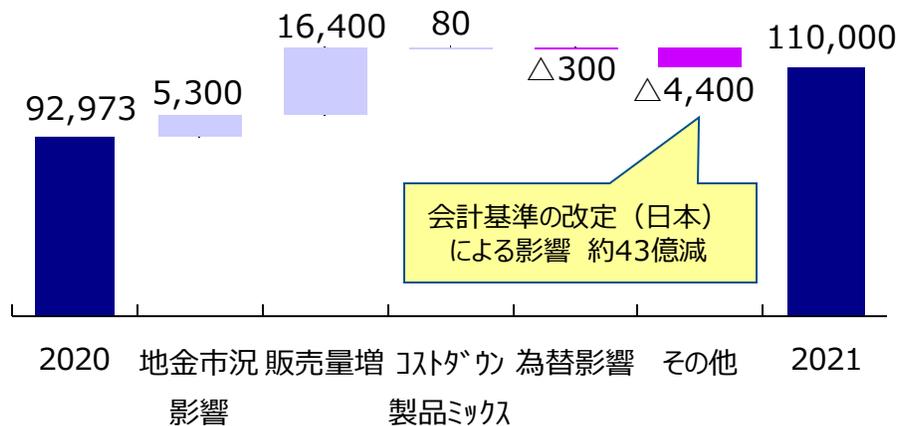
※ネット有利子負債＝有利子負債－現預金

2021年度 通期計画

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度 (計画)			
		通期		上期	下期
売上高	92,973	110,000	-	52,300	57,700
営業利益	△2,554	1,800	(1.6%)	△750	2,550
経常利益	△2,094	1,600	(1.5%)	△850	2,450
当期純利益	△2,843	600	(0.5%)	△1,000	1,600

売上高増減要因 (単位：百万円)



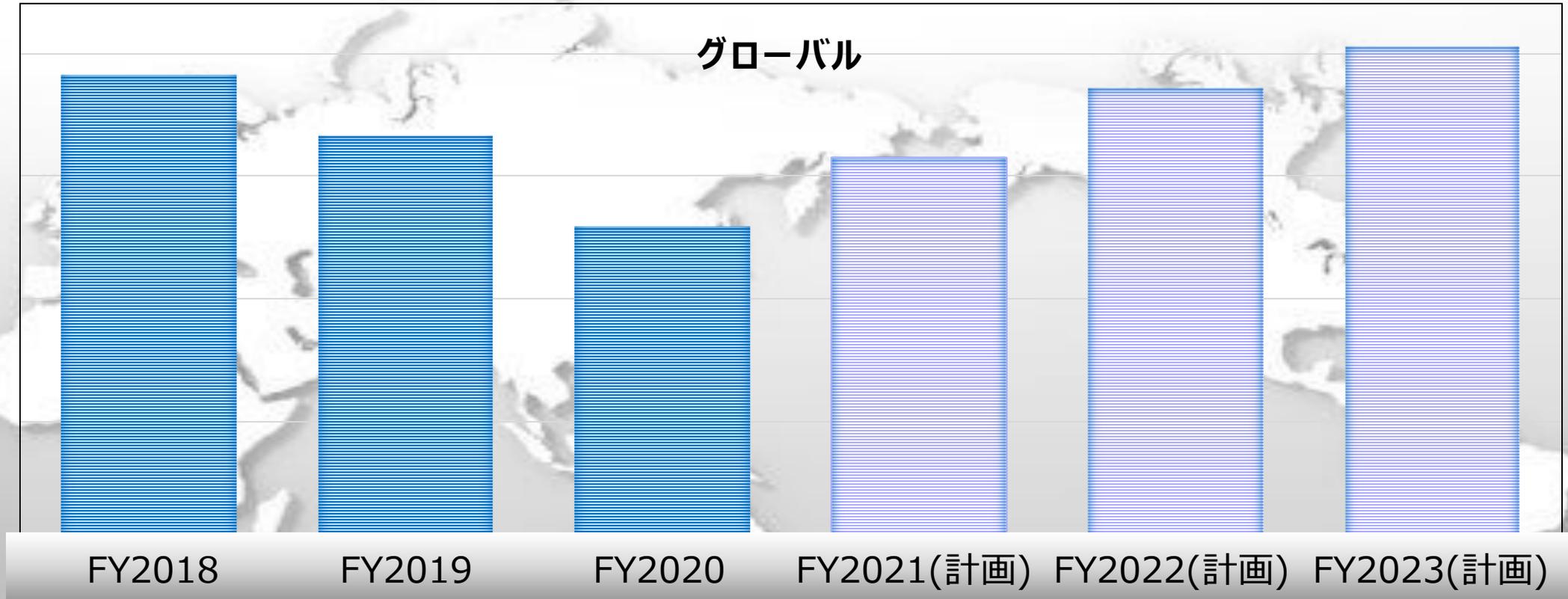
営業利益増減要因 (単位：百万円)



実績の為替レート (通期平均) : USD 米105.68円 メキシコ106.68円 人民元 15.44円 ルピー 1.43円 計画の前提レート : USD 105.00円 人民元 15.0円 ルピー 1.45円

グローバル 売上重量

■ 売上重量は回復基調。22年度には新規受注も含め19年度を上回る水準を見込む



21年度通期計画の外部要因

➤ 半導体不足等による自動車生産減

【要因】

- 5Gスマホ、ゲーム機、PC、データセンターなどの半導体需要の好調
- コロナ禍からの早期回復による中国の自動車需要の急増
- 半導体工場の火災等の影響

【影響】

- 自動車生産の減産

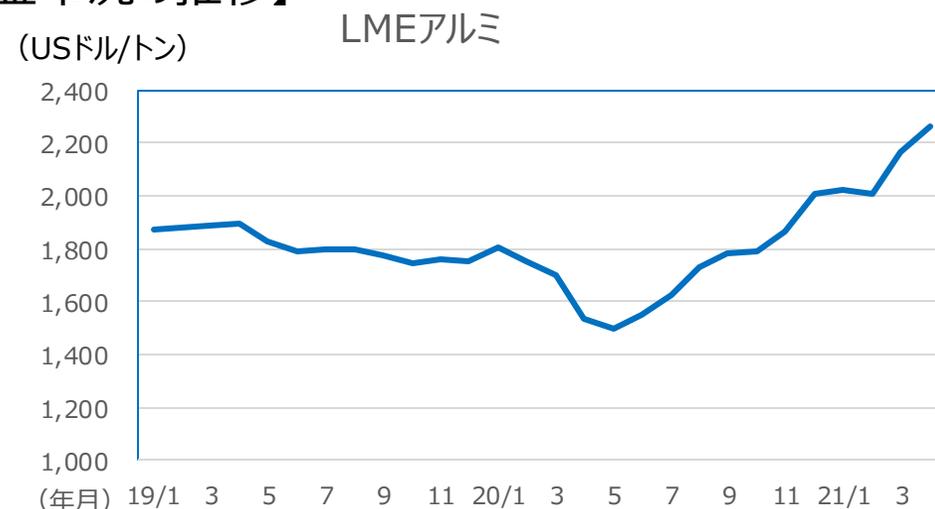


➤ アルミニウム地金価格の上昇

【影響】

- 地金価格の高騰（中国の自動車需要など）
- 販売価格は3か月ごとの反映。短期的には収益圧迫要因

【地金市況の推移】



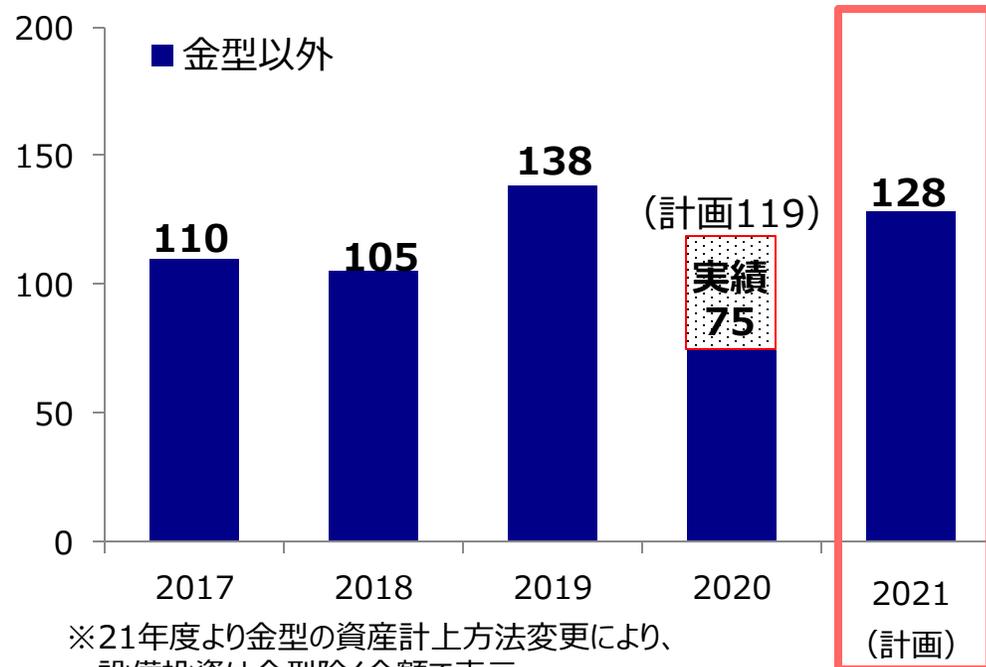
⇒半導体不足とアルミ地金価格上昇影響を上期計画に織り込み

設備投資・減価償却の動向

2020年度実績と21年度計画

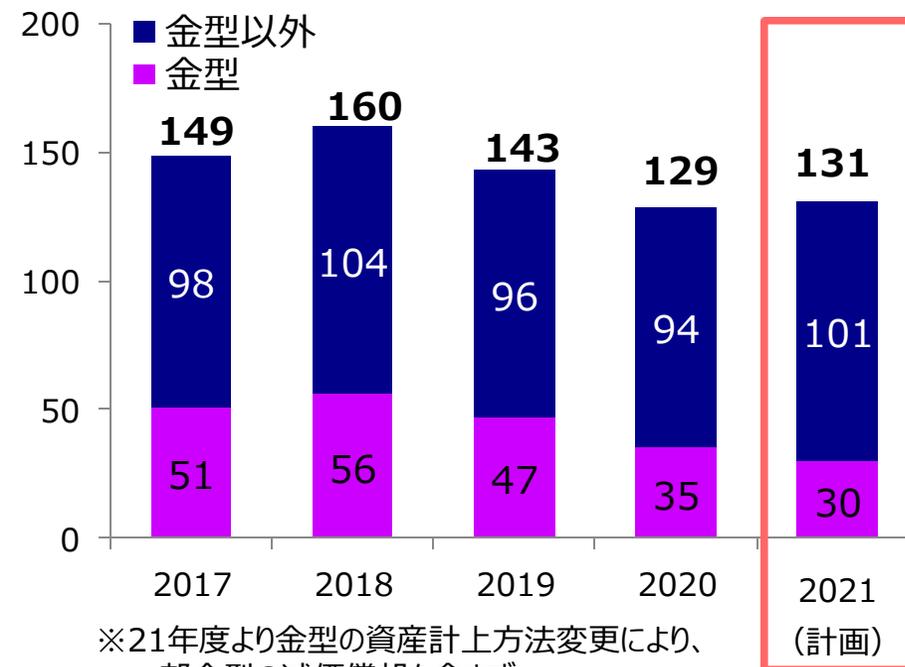
- 設備投資金額：20年度実績は119億円の計画に対して75億円の実績。21年度は128億円の計画
- 投資内容：社内の設備の流用等の工夫で効率的な投資を継続。21年度計画も同様に抑制
- 減価償却費：21年度計画は131億円（前年同水準）

設備投資額の推移（単位：億円）



※21年度より金型の資産計上方法変更により、設備投資は金型除く金額で表示

減価償却費の推移（単位：億円）



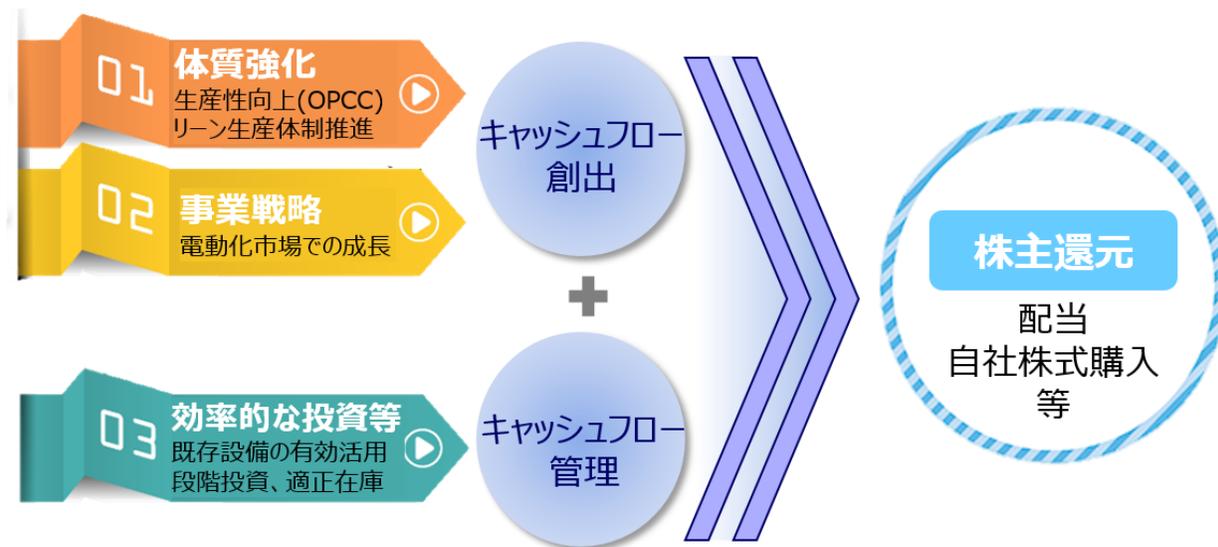
※21年度より金型の資産計上方法変更により、一部金型の減価償却を含まず

配当

中長期的な企業成長と配当性向等を勘案し適正な利益還元を推進してまいります

- 2020年度は、期末配当は下期の業績回復を踏まえ5円復配
- 2021年度は、年間10円の配当を予想

1株当たり配当金	2020年度	2021年度 予想
(年間)	5	10
中間配当	0	5
期末配当	5	5
1株当たり純損益(連結)	△111.06	23.44
配当性向(連結)	—	42.7%





Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。